

より多くのなかまを職場で迎えよう

2021年2月5日号
第207号

毎月2回5日・20日発行

発行所

東京都千代田区霞ヶ関2の1の3 国土交通労働組合
電話(03)3580-4244 F A X (03)3593-0359
URL : http://kokkoroso.or.jp/
発行者: 安藤 高弘
1部20円(組合員の購読料は組合費に含む)



2021年2月5日 国交労組 第207号 (通巻1363号) 昭和37年12月3日 第三種郵便物認可

国交労組

国土交通労働組合結成10年の節目を増勢で迎えよう

4月期の新規採用者が職場に配属されるまで、2か月を切りました。昨年4月以降、「なかまを増やすなかま」を増やし、「何がなんでもなかまを増やす」を合言葉に、各職場で組合への加入を呼びかけるなかで、全国で260人を超える新たななかまを迎えています。組織拡大のとりくみは、「席が近い」、「年齢が近い」、「境遇が近い」など、身近な組合員がみずからの言葉で組合の必要性やなかと連帯する大切さをしっかりと伝え、「なかまになろう、一緒にやろう」と訴えることが大切です。組合員一人ひとりが「自分も『なかまを増やすなかま』なんだ」と認識し、みんなでなかまを増やしましょう。

声かけは一番身近な組合運動

コロナ禍のいま、在宅勤務等の出勤抑制によって、職員同士の対話の機会は従来に比べ減少して



新規採用者対象の学習会(写真はコロナ禍前)

います。また、テレワークに該当しない職場においても、密を避けるために一定の制限がかかり、職員同士の横断的なつながりが従来に比べて希薄になってきている面もあります。従来どおりの活動が行えず、シレンマを多くの支部・分会が抱えています。そのようななかにおいて、対面による声かけなしに組織拡大はすすみません。加入の呼びかけで大切なことは、直接顔をあわせ

て声かけを行うことです。そして、一番身近な職場の先輩が声をかけることです。また、現場に配属される新規採用者の多くは、何らかの不安を抱えています。不安を払拭し、孤立させないためにも、なるべく早い時期にすべての該当者へ声をかけることが重要です。コロナ禍の制限下においては、役員のみが呼びかけにあたるのではなく、組合員一人ひとりが機会をとらえ、総当たりで呼びかけることが、これまでに以上に大切です。

労働組合の必要性を伝える

声かけに際しては、すべての組合員が国土交通労組のとりくみや楽しさを思つように伝えられたいこともあるかもしれません。労働組合のとりくみは、待遇改善や職場環境の改善といったごく身近なとりくみから、複雑にからみあつた社会情勢そのものも変えようとする、身近に感じにくいとりくみまで、多種多様な課題にとりくんでいきます。そのような難しい課題は、説明することも、それを理解してもらうことも一筋縄にはいきません。

組合だからこそ職場を守る

私たちの公務労働者においても働くうえで、賃金や労働環境、将来設計など様々な悩みを抱えています。国土交通労組のとりくみによって、新しい休暇制度や手当の新設など様々な要求を勝ちとつていくことは間違いありませんが、度重なる定員削減、それに反比例するように増大する業務量など、私たちの労働環境はいつそきびしくなっていくのが現状です。国土交通労組としても、「国民の安全・安心を守る国土交通行政」を実現するため、関係官庁や人事院に十分な予算の確保や人員体制を訴え、地方整備局においては2年連続で101名の純増を勝ちとりました。しかしながら、私たちの労働条件に大きく

加入の呼びかけは千差万別

かかる国家予算の枠組みは、なかなか望むように変えることができず、大変難しい問題です。だからといって、私たちが労働組合として声をあげず、要求をしなくなれば、これまで積み上げてきた成果が改悪されるおそれが大いにあります。いま私たちがいる職場をしっかりとまもることに、そしてそれを後輩たちに引き継ぐためにも、加入を呼びかけ、労働組合を大きく、強くしていくことはとても重要なことです。

コロナ対策をしてオルグを実施



中央委員会においても、組織強化・拡大の大切さをあらためて確認しており、まずは、今年度の新規採用者100%加入を達成し、国土交通労働組合10年の節目となる9月を増勢で迎えられよう、とりくみを強めていきます。

昨日11月に発売された天穂のサクナヒメというゲームでは、農林水産省のHPが攻略情報といわれるほど稲作の工程が紹介されています。そのなかで、雀が収穫前の米を食べることから害獣として登場しますが、ゲームでは駆除することはできません。しかし、現実では国家規模でとりくんだ事例があります▼大躍進政策といい、中国が1958年から1961年までの間、毛沢東主席が主導した農業と工業の増産政策であり、そのなかの「四害駆除運動」では、鼠、蠅、蚊とともに雀も駆除対象としてとりくまれました。名前と目的だけは素晴らしい政策に見えます。しかし、実際は4500万人以上の死者を出し、政策は失敗しました▼国内情勢をみれば、政府は「国の無駄を省く」、「公務の生産性の向上」など、耳障りのいい言葉のもとで公務員の定員削減をすすめた結果、公務職場は過酷な労働環境となり、日々疲弊していくばかりです▼今年10月に衆議院議員が任期満了をむかえるため総選挙が行われます。見た目や言葉のイメージだけでなく、この本質を見極め信頼できる者に投票することが大切です。(M)

